

大宮東小だより

平成31年4月8日
NO.1 (4月号)

<http://omiyahigashi-e.saitama-city.ed.jp/>

電話 048(644)0311

転換の1年

校長 石田 耕一

4月に入り例年に比べ寒い日が続きました。そのおかげで、始業式・入学式まで桜の花が持ち堪えてくれたようです。春休み中も、出張のため大宮駅に向かって歩いていると、何人かの本校の子どもたちや保護者に出会うことができましたが、皆さんが丁寧にあいさつをされるので、ぽっと心が温かくなりました。

4月1日に新しい元号「令和」が発表され、次の時代への期待が高まっているようですが、3月末、学校教育の世界でも2020年度からの新しい小学校学習指導要領の全面実施に向けた具体的な動きがありました。例えば、3月27日の読売新聞朝刊は、その動きを1面トップの見出しで次のように伝えています。

全国の小学校で使われる教科書の検定結果が26日、公表された。新たな学習指導要領に対応し、児童の話し合いや意見発表を重視した「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング=A L)が全教科で登場。知識のほかに考える過程を詳述したことなどから、小学校6年間で使う平均ページ数は全体で現在より1割増となった。5年生から初めて教科となる英語は、申請した全7社(計15冊)が合格した。

以前にもお話ししましたが、学習指導要領は、学校の教育指導における「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、そして「何ができるようになるか」の基準を大綱的に定めたものです。学校での実際の指導にあたっては、さらに、具体化する必要があり、その主たる教材が教科書です。私たちは、教科書だけを教えるのではありませんが、教科書は教師の指導の在り方に大きな影響を与えます。教師は学習指導要領、学校の指導計画、そして教科書に示された学習する内容、学習の方法を読み解き、そこに大宮東小学校としての肉付けを行って実際の指導を行います。併せて、ねらいとした「資質・能力」が子どもたちの身につけているかを、チェックしながら指導を進めていく方策も追求して行かなければなりません。

本年度は、原則として現行の学習指導要領に基づく指導が行われますが、私たちはこれまでも、新しい学習指導要領の示す理念を意識しながら指導を行ってまいりました。これからの1年間も、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、そして「何ができるようになるか」ということをより意識して教育指導を行ってまいります。保護者・地域の皆様におかれましても、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、「何ができるようになるか」の観点で本校の教育指導を見ていただき、御批評をいただければと思います。

さて、平成31年度の大宮東小学校は、いくぶん規模が小さくなり、はばたき学級を含む23学級、児童数698名でスタートします。全職員「通うことが楽しい学校 大宮東小学校」となるよう、教育環境の整備、学習指導の充実、教職員研修に努力しますので、引き続き御支援、御協力をよろしくお願いいたします。